

たかぎ



# 議会だより

No.70

平成27年 7月

発行 長野県喬木村議会  
編集 議会だより編集委員会  
発行責任者 小澤 博  
印刷 龍共印刷(株)

## 第二小学校 音楽会



平成27年第2回定例会	2ページ
議員発議・平成27年第2回臨時会	3ページ
常任委員会報告	4～5ページ
議会の新体制	5ページ

一般質問	6～11ページ
全員協議会報告・議会日誌	11ページ
この村でがんばってます (社協ボランティア)	12ページ

# 平成27年第2回定例会

平成27年第2回定例会が6月12日から6月25日までの14日間の会期で開催され、条例等の一部改正、補正予算等を承認、可決した。  
また、請願・陳情を採択し、関係機関へ意見書を提出した。

## 人事

○固定資産評価審査委員会委員の任期満了により、喬木村13307番地2、元島利雄氏の選任(再任)に同意した。

## 補正予算

○一般会計(第1号)

(歳入)  
繰越金  
1,291万3千円

(歳出)  
コミュニティ助成事業補助  
390万円

## 条例等の一部改正

○喬木村介護保険条例の一部改正

平成27年度から平成28年度までの低所得者の介護保険料を軽減する改正

○竜東地区教育支援事務協議会規約の一部改正

法律改正により、「教育長」と「教育委員長」が一本化されたことによる改正

○一般会計(第2号)

(歳入)  
ICT実証事業委託金  
802万1千円

(歳出)  
ICT活用による教育の実証事業  
1,135万8千円

○下水道特別会計(第1号)

(歳入)  
加入分担金  
315万円

(歳出)  
農集排伊久間処理施設最適化構想委託料  
232万2千円

特環下水道管路工事費  
300万円

農集排伊久間処理区管路工事費  
200万円

## 平成27年度 補正予算 (6月)

会計名	補正額	予算総額
一般会計 (第1号)	2,437万0千円	34億8,437万0千円
一般会計 (第2号)	1,135万8千円	34億9,572万8千円
下水道特別会計 (第1号)	386万2千円	3億2,386万2千円

## 請願

◇「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める請願書

◇国の責任による35人以下学級推進と、教育予算の増額を求める意見書提出に関する請願書  
何れも質疑・討論なく、採択し、関係機関へ意見書提出

## 陳情

◇年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用に関する意見書の採択を求める陳情書

質疑・討論なく、採択し、関係機関へ意見書提出

◇TPPに関する国会決議の実現を求める陳情書  
賛成意見のみで、採択し、関係機関へ意見書を提出  
◇安倍首相の米議会での発言撤回および「安全保障関連法」案を国会で成立させないよう要請する陳情  
賛成意見では、「首相の米議会での発言は議会制民主主義、国会を軽視している。安全保障関連法案は法案10本を一まとめに出さされているが、一つ一つ審議すべきだ。違憲だとする憲法学者や国会議員経験者、国民の声に耳を傾けない。」反対意見としては、「陳情の趣旨には、賛成するが、米議会での発言撤回は納得できない。よって趣旨採択とし議会独自の意見書を提出すべきだ。」  
採決の結果、賛成6反対5で採択となり、関係機関へ意見書提出

# 議員発議

次の2件について議員発議があり、7月に県議会議長、県建設部長に陳情・提言するため県庁へ赴くこととした。

## 天竜川架橋の長野県道路整備計画への格上げと早期着工を求め陳情書

リニア中央新幹線が品川駅と名古屋駅で着工となり、当地においても中心線測量が終了し、中心線杭と用地幅杭が設置されました。また、三遠南信自動車道飯橋道路第3工区の工事も始まりまし

た。リニア中央新幹線長野県駅と三遠南信自動車道喬木インター（仮称）氏乗インター（仮称）飯田東インターを結ぶ県道上飯田線や主要地方道下条米川飯田線とのアクセスの重要性は、飯田・下伊那の地域創生に不可欠です。天竜川に架かる阿島橋

はリニア中央新幹線長野県駅に一番近い重要な橋であり、現在、日に1万台を超える通行量があるにもかかわらず幅員は狭く、高さも不十分です。リニア中央新幹線、三遠南信自動車道開通後の交通量の増加に耐えられる状況ではありません。阿島橋の複線化、又は阿島橋の下流域への新規架橋が必要となります。

つきましては、南信州の地域振興や高速交通網時代への対応のためにも、下記事項の県道路整備計画への格上げと早期着工を強く求めます。

### 記

1、阿島橋の複線化、又は新規架橋

## 壬生沢川河川改修に関する陳情書

壬生沢川は喬木村と豊丘村の村境を流れる一級河川で、その特徴は下流域においては天井川でありかつ住宅地が護岸に隣

接しています。川幅は狭く、護岸高も不足しており、平成25年9月16日に発生した台風18号の際には出水により護岸一杯まで河川水位が上昇し、近隣の住民に対して避難準備情報が発令されました。昭和36年災害にて被害に遭われた住民2世帯7名が過去の記憶を思い起こし、北コミュニティ消防センターに避難しました。その後、堆積した土砂の排出並びに豊丘村側の側面の改良が行われましたが、現在では上流の斜面を覆っている植生と共に流出する土砂によって河床の上昇が進み災害発生が危惧され、住民の不安は増しています。

つきましては、梅雨、台風シーズンを前に対策が必要となりますので、下記事項の早急な実施を強く求めます。

### 記

1、河川断面確保等の河川改修、定期的な堆積土砂の排除、河床の勾配の確保

# 平成27年 第2回臨時会

平成27年第2回臨時会が5月20日開催され、専決処分報告、条例の一部改正、役場庁舎増改築工事建築工事変更請負契約の締結を承認、可決した。

## 専決処分

○特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正  
子ども学遊館長、社会教育指導員を加える

○喬木村税条例等の一部改正

地方税法の改正による番号法（マイナンバー）施行に伴う規定、減免の申請期限、ふるさと納税制度の拡充、軽自動車税の税額についての改正

○喬木村国民健康保険税条例等の一部改正  
地方税法の改正によ

る課税限度額の引き上げ、低所得者の負担軽減措置の見直しについての改正

## 平成26年度

○平成26年度一般会計予算  
村税・特別交付税等の精算増と歳出の不用減

等て留保できる財源を予備費に計上

## 変更請負契約

○役場庁舎増改築工事  
建設工事  
194万4千円を増額して、2億284万4千円とする

## 平成26年度 専決補正予算

会計名	補正額	予算総額	
一般会計（第10号）	834万8千円	40億4,757万9千円	
特別会計	国民健康保険（第3号）	△782万2千円	6億2,228万0千円
	後期高齢者医療（第3号）	△388万3千円	6,273万3千円
	介護保険（第4号）	△961万4千円	7億1,779万8千円
	村営水道（第4号）	136万8千円	2億6,999万1千円
	下水道（第5号）	△559万4千円	2億7,456万7千円
	農業集落排水（第3号）	△46万2千円	8,021万0千円

# 常任委員会報告

## 総務産業建設常任委員会 委員長 横前 豊

委員会に付託された議案はなく、陳情書2件・議員発議2件が提出され、慎重審議の結果、当委員会として採択した。

### 陳情

↑TPPに関する国会決議の実現を求める陳情書

賛成の立場から、集団的自衛権の行使は米軍の先制攻撃による戦争に参戦する内容を含み、多くの憲法学者も違憲であると発言しているため陳情を採択すべきと意見が出された。また、反対の立場からは、首相の発言は言論の自由の観点から撤回すべきではなく、十分な議論を尽くす必要もあり慎重審議をとる発言があった。採決の結果、賛成3反対2で採択した。

〈安倍首相の米議会での発言撤回および安全保障関連法案を国会で成立させないよう要請する陳情〉

今回の交渉により、農畜産物が関税撤回されると1,029億円程度の生産減少が見込まれ、農家経営に甚大な影響を及ぼす。政府は平成25年4月の国会決議を実現するため毅然とした交渉姿勢を貫いてもらいたいとの趣旨であり、全会一致で採択した。

### 議員発議

「天竜川架橋の長野県道路整備計画への格上げと早期着工を求める陳情書」および、「壬生沢川河川改修に関する陳情書」については、前者は、リニア開通後の交通量の増加に対応できる阿島橋の複線化または新規架橋の必要性から、後者は、川幅も狭く護岸高も不足しており、台風などによる水位上昇による甚大な被害が想定され早急な対策が求められていることから、村としても重要な課題であり県に陳情すべきであるとし全会一致で採択した。



改修が望まれる壬生沢川

## 社会文教常任委員会

委員長 元島 賞子

委員会に付託された議案はなく、陳情書2件・請願書1件が提出され、慎重審議の結果、当委員会として採択した。

### 陳情

〈年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用に関する意見書の採択を求める陳情書〉

質疑の中で、「趣旨については理解するが、被保険者の多くの方が安全かつ確実な運用を望んでいるかの調査などは行ったか」という質問に対して、アンケートなど実施については把握していないとの回答があった。また、「確実に意思反映できるガバナンス体制について連合会以外の団体の意思確認ができていないのか、具体的にその体制をどのように取っていくのか」と言う質問に対して、具体的な提案があれば



小学校の授業風景

ば意見書に盛り込んでもよいとの回答があった。趣旨としては賛成であり全会一致で採択した。

### 請願

〈義務教育国庫負担制度の堅持を求める請願書〉・〈国の責任による35人以下学級推進と、教育予算の増額を求める意見書提出に関する請願書〉

質疑として、「複式学級を解消するよう学級定員の引き下げを要望しているが、具体的な数値目標を載せるべきではないか」との意見があった。

答弁として、「国基準での複式学級と県基準のそれとは2倍の格差があり、長野県では小中学校とも8名以下としている。都道府県の各教職員組合からの請願提出があり、長野県としては数値を入れる事はできるが、他都道府県に配慮して目標数値を入れない」との説明があった。討論の中で国に出す意見書などこの内容で出すべきとの意見があり全会一致で採択した。

# 予算決算常任委員会

委員長 昼神 二三男

委員会に付託された案件は、平成27年度一般会計と、下水道特別会計の補正予算の認定で、審査の結果、当委員会ではそれぞれ可決した。質疑から抜粋

## 27年度補正予算

### 一般会計

#### ・戸籍住民基

#### 本台帳費

マイナンバー制度の進捗は。

**A** 国が示した工程どおり進んでいる。7月より住民基ネットを通じて番号を付番し、10月に全ての住民に簡易書留で番号通知を行い、1月より住民カードのような顔写真付きのカードが発行できる。

**Q** 日本年金機構で問題が起きたが、セキキュリティは地方自治体が責任を負うのか。

**A** 今回入るのは団体内宛名統合サーバーというもの。本制度のセキキュリ

ティの考え方として、住と税それぞれ別々のサーバーに保存して、利用する保険年金等が暗号化されているものを紐付けし、それを処理する中間サーバーを置くことになっていく。いくつかの工程を経て、利用する担当者のみが辿りつける多重構造のサーバーを構築するため、高度なセキキュリティとなっている。

**Q** 住民票コードと同一になるのか。

**A** 住民票コードをベースにして別に生成する。

#### ・北保育園運営経費

#### ・第二小学校管理経費

#### ・調理場管理運営経費

**Q** 3箇所の修繕費が当初予算に計上できなかった理由は。

**A** 保育園は3月末の報告のため、当初予算に間に合わなかった。調理場は突発的な故障。第二小は、修繕箇所の老朽化が進んでおり、足場を構築しての修繕となるため、天井の工事と同調することによりコストが削減できるの

#### ・北・中央・南保育園運営経費

**Q** 各園の消防用設備はトイレ以外は整備されているのか。

**A** トイレ以外は設置済みである。トイレは元々設置の必要はなかったがパネルヒーターや暖房便座が火元になりうることから、広域消防からも設置の依頼があり、業者からも要設置の報告がきているため、各園でパネルヒーターがあるトイレへ設置する。

#### ・北保育園運営経費

**Q** シロアリ対策修繕について、昨年は南保育園今年は北保育園で行うが中央保育園については心配ないか。

**A** 北保育園の内容は、点検口の下を確認した結果、建設時に埋められていた端材等が湿気を吸収する中で発生した。構造体は今のところ心配ない。中央保育園は点検口を全て確認したが、発生はない。

#### ・消防団運営経費

**Q** 備品購入する小型発電機の容量は。

**A** 600VAで、現場で投光器を照らすことを目的に整備するもの。

**Q** 夏用活動服のセットの内訳と単価は。

**A** 上着とズボンのセットで、上着7,200円、ズボン6,200円、ネット400円。

**Q** 夏用活動服の購入費用の出所は、地域活動助成事業助成金か。

**A** 歳入の諸収入・雑入で、地域活動助成事業助成金の内訳は、阿島獅子の助成で140万円、消防団の夏用活動服に100万円、合計で240万円である。

#### ・交流研修センター管理運営経費

**Q** 修繕費100万円はどこを修繕するのか。

**A** 引っ越しが終わったので、傷み具合を把握しながら修繕を行っていく。窓口のカウンターは、庁舎と統一したイメージで検討していく。

#### 下水道特別会計

質疑なし

## 議会の新体制

委員会構成が下記のように変わりました。

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	
議長	小澤 博	社会文教 常任委員会	委員長 下岡 幸文	議会運営 委員会	委員 木下 温司	
副議長	森谷 博之		副委員長 筒井 正司		委員 "	森谷 博之
監査委員	筒井 正司		委員 中森 高茂	議会運営 委員会	委員長 木下 温司	
			委員 "		副委員長 小池 豊	
総務産業建設 常任委員会	委員長 昼神 二三男	委員 "	委員 元島 賞子	議会だより 編集委員会	委員長 森谷 博之	
	副委員長 木下 温司	委員 "	委員 森谷 博之		副委員長 下岡 幸文	
	委員 後藤 章人	委員長 横前 豊	委員 中森 高茂		委員 "	後藤 章人
	委員 小池 豊	副委員長 昼神 二三男	委員 小池 豊		委員 "	小池 豊
	委員 横前 豊	委員 下岡 幸文				
	委員 小澤 博					

下岡 幸文 議員

筒井 正司 議員

## リニア中央新幹線と三遠南信自動車道を連結する道路は

**問** 豊丘村河野・高森町山吹間の新規架橋計画が本格化した時、県は竜東一貫道の県道移管を望む可能性があると思うが現時点での村の考え方は。

**村長** 現時点で県の道路整備計画に乗っていないので、三遠南信道開通までの間の改良は難しいと判断している。現在、南信地域の広域道路ネット

ワーク整備計画の見直しが行われており、この計画に乗せてもらうよう要望している。北部5町村はもとより、南部の町村の首長からも前向きな発言があり、協力を得られる見込みが立ったので、期成同盟会の設立など、具体的に運動を展開していきたい。

## 協働・共創のむらびりへの期待は

**村長** 仮に県道移管の話があった場合、阿島橋の複線化あるいは新規架橋を条件とし、橋梁の修繕等の終了後の移管となるよう要望していく。現状のままでの移管は念頭がない。

**問** 協働・共創のむらづくりは村づくりの理想であり、地域創生の基本となるべき理念の一つだと思う。地域活性化に成功している自治体の例と比べると、喬木村は産業事業間の連携や協力態勢不足など、協働・共創の土壌がまだ充分育っていないと感じる。村として期待する思いをお聞きしたい。



県道上飯田線の狭険な区間

**問** インターへ接続する県道下條米川飯田線については、富田バイパスの構想が具体化し進んでいる。完成後は特に交通安全面や利便性、交通人口の増加が期待される。一方、県道上飯田線について、小川・氏乗間がカーブが多く、道幅も狭いことから、長年、拡幅改良を県に陳情してきている。今後の見通しを村はどう見ているのか。

**村長** 住民ニーズの多様化に対応する村づくりを進めるためには、行政だけでなく、民間企業、住民、地域、NPO法人等各種団体などの多様な主体の協働が重要だと考えている。自分たちの地域

は自分たちの手できるといふ思いのもと、一人一人の知恵と工夫により、自らできることを考え、実践することが必要だ。個人として、地域として、団体として、また企業として、それぞれの立場で村づくりに積極的に関わって欲しい。

## 今後の交流センターのあり方は

**問** 過去の答弁で、村の活性化・産業振興拡大に向けて、外部有識者あるいはシンクタンクに依頼して村の将来像を描きたいと言われた。継承実践していくのか。

**問** NPO法人設立後6年経過しているが、活性化団体は5団体増えているにも関わらず予算額で対比してみると横這い状態である。村長は交流センター周辺の活用方法について、NPO法人に期待して

**村長** 基本的な部分は継承して取り組んでいく。昨年度は交流センター周辺整備計画策定のために既存の資料整理をコンサルタントに依頼している。今年度は、県外の開発コンサルタントや大学など、外からの視点を取り入れられないか調整中である。

## ボランティアセンター開設は

**問** 6月2日に開催されたボランティア活動報告と総務課・福祉課・教育委員会への報告を受けたが、両者の間に温度差があるように感じた。両者の考えを実現するために、人材の確保と新たな施設が必要になるのではないかと感じるが、村長の見解は。

**問** ボランティアセンター開設は課がオブザーバーとして参加している。また、ボランティアを行う人と地域の課題をつなぐ役割の機能などが、既存の施設では対応できないという場合は、新たな施設整備について、真剣に考えていきたい。

**問** 産業振興課が庁舎へ移転後は、庁舎の出先機関で、総合的窓口にすると言われた。現在、住民票・印鑑証明・所得証明の発行業務であるが、7つの課全ての業務の事ではないのか。

**村長** 住民票等発行業務の他、一般的な役場の相談窓口として、それぞれの担当部署につなぐ役割を担っていくために、経験豊富な職員を配置を行っている。

いるが、行政としてもテコ入れをするために、検討委員会設立が望ましいと思うが。

**村長** 交流センターの活用方法については村が主体となつて考えていくが、NPOたかぎと一定の調整が必要と考えている。また周辺整備検討委員会を立ち上げる予定であるため、現時点では委員会の設置は考えていない。



社協内のボランティア喫茶ゾーン

### 定住自立圏と広域連合

**問**

定住自立圏は中心市と周辺市町村が協定を結び、中心市を核にそれぞれの町村が連携して施策を進めていく。また、広域連合は14市町村が対等の立場で事業の共同化を行っていくという考えでよいのか。

**村長**

定住自立圏は定住自立圏構想推進要綱に基づき、中心市と近隣市町村が協定を結び、連携と協力により、必要な都市機能、生活機能の確保、充実をさせる。広域連合は地方自治法の規定により、広域にわたり処理することが適当であると認められたものに関し、計画を立て、連絡調整を図り、広域行政を進める。

### 喬木ブランドの確立は

**問**

今年も喬木村のブランドとして定着したイチゴ狩り観光には、5万人近い方が訪れた。こうした中、食のブランド化を目指して行われた、

### 将来に向けて自然豊かなむらづくりは

**問**

高速交通網時代に向けて、15年、30年後の将来を見据え、季節に応じた景観づくりが必要と思う。私達の美しい里山のロケーションを残す村づくりに積極的に取り組み、九輪草・ポピー・ラベンダー・阿島の大藤のように、「喬木へあの花を見に行こう」と一人でも多くの方が足を運び長く村に留まってくれるよう、施設等の整備も必要かと思う。

里山整備事業を推進しながら、村内各地が、来村者に楽しんでいただける場所、村内の方の癒しの場所になるよう、村の開発に併せてより良い景観のあり方を検討していきたい。

「喬木名物コンテスト」その優秀作品が村内の飲食店で提供されているというが、どう育てていくのか。また、花のブランド化を目指す九十九谷森林公園の「村花・九輪草」は今年も多くの方が訪れ、花の美しさに感激されていた。こうした中、喬木村として交流人口拡大のためにマラソンなど、スポーツイベントのブランド化を目指せないか。

**村長** 食のブランド化については、村はブランド化の種をまいた。これを大きく育てていくには、関係する飲食店のやる気が必要。スポーツイベントのブランド化については、過去にも検討した経過があるが、地形的にも無理があると判断した。現段階では難しい問題だと考える。今後近隣市町村と連携する中で可能性があれば考えたい。



たかぎ名物コンテスト レシピ集

**村長**

季節に応じた景観づくりという事で、春には、机山公園の桜、氏乗の紅枝垂桜、九十九谷公園の九輪草、シャクナゲ、

### 障害年金の地域格差放置問題は

**問**

障害年金は病気や怪我で一定の傷害のある方が受け取れる年金で、1級、2級がある。長野県は、全国で4番目に低い不支給率で5.8%となっているが、喬木村の障害者の方の不支給率

はどの様になっているか。  
**保険福祉課長**

障害年金制度は20歳以上を対象に支給される公的年金。年金を受け取るには、本人または家族の支給申請が必要。障害基礎年金は、役場又は年金



緑化祭の様子

事務所へ、障害厚生年金は、年金事務所への申請となる。村は障害基礎年金の申請窓口の一つであるが申請後の障害年金の支給、不支給の決定や、障害厚生年金についても把握できないのが実情である。

小池 豊 議員

横前 豊 議員

## くりん草園の今後のあり方は

**問** 天候にも恵まれ、5月15日から31日まで開催された今年のくりん草祭りは、盛況のうち

**問** 今後も取り組みをお願いしたい。

**答** 木道等大変に傷んでいて、歩くのにも危険な場所が見受けられる。水路等の整備も含め

進めていきたい。

**村長** くりん草園を含む九十九谷森林公園の管理は、土地の所有者である小川耕地財産区で、除草間伐等行っていた

が、年間を通してボランティア活動での管理が立派な成果を上げている。村が求めている協働の代表的な事例なので、この灯を絶やさぬように、

## 富田バイパス、若者定住住宅は

**問** 富田の県道バイパス工事の早期着工と若者定住住宅の進捗状況

は。

**村長** バイパスについて

は、県において設計の見直し作業が行われており、6月下旬に地権者説明会

を実施する。地権者の了解が得られれば、用地測量、買収面積の確定作業へと進み、その後買収工事着工となる。

若者定住住宅については、5月に造成地の宅地区画、進入路等の測量設

計業務は発注をしている。過去最大の住宅建設事業となるため、それにふさわしい設計コンペ審査会を開催し、来年度から建築工事ができるよう準備を進めている。29年度より入居できるよう進めている。

て、村として考慮してもらえるか。

**村長** 公園内の木道、水路については、県の森林税を活用した森林づくり推進

支援金をあてて整備を進めている。今後に必要な箇所



盛況だったくりん草まつり

## 今後の村の観光事業は

**問** 今年の春の観光イベント状況をみると、

いちご狩りを中心に村内を訪れた観光客は約7万人

人と思われる。この村の観光事業について、村長

は今後どのように考えていくか。

**村長** 本村は全国的にアピールできるような大きな観光資源は持っていない。そこに人工的な大型施設や宿泊施設など整備

するのはなく、いちご狩り、くりん草など、各

活性化団体が積極的に観光事業に取り組んでいる。

これらの団体が連携を深め活動していくことが、む

らづくりの発展を促し、観光事業全体の発展につながる

かと考えている。

**問** 春の観光イベントでの反省で、一部のカーナビ案内が交流センター

を入力すると氏乗方面を示す場合があり、その

対応に苦慮している。村内に訪れた観光客に、

案内所が一目でわかるよ

うな大型看板を設置したらどうか。

**村長** 大型看板の設置は村が単独で観光案内の掲

示物を考えるより、広域で統一された、デザイン

での看板を検討している。

**問** ふるさと大使の要項を昨年6月に制定し、書家の田中節山氏と、

音楽グループのアナログフィッシュを任命した。

今後、村のPRに対して、どのような事を要望していくのか。

## 産業振興課長

ふるさと大使の皆さんは、現在、県のアンテナ

ショップでの阿島傘の展示や、フェイスブックに

喬木の観光地の掲載をしている。今後は、ふるさと

と回帰推進事業の首都圏でのイベントや関東ふる

さと会での演奏などにより、喬木をアピールしてもら



ポピー園の園児



### 不妊治療への 支援拡充は

**問** この村でめでたく結婚されても、様々な要因により出産が困難で特定不妊治療をされている方がいる。その治療費は体外受精で1回1万円。顕微鏡受精は1回30万円と高額である。年1回の助成の制限枠を広げる考えはないか。

**保健福祉課長**

今後の状況や動勢を確認し、必要に応じて適切な対応を考えていきたい。

### マイナンバー制度の問題点は

**問** 日本年金機構から個人情報約125万件流出した。年金が公的なものであるにもかかわらず、セキュリティがズサンであり怒りを感じる。マイナンバー制度は、この年金情報とリンクするということ。この制度とは。

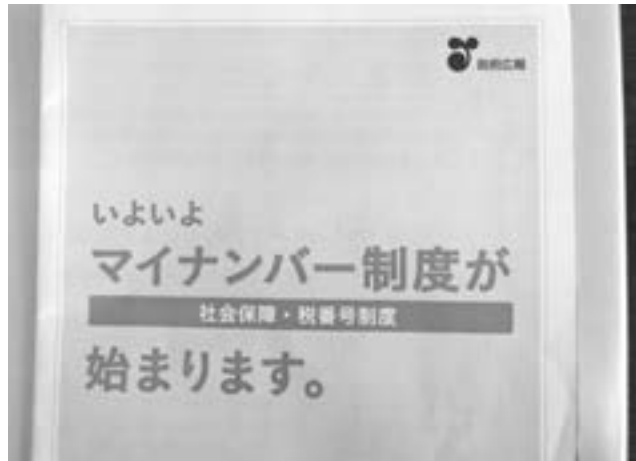
**総務課長**

住民基本台帳の住所・氏名・生年月日・性別の基本4情報と

所得情報を柱に、更に児童手当・各種保険・年金等の公的サービスの情報との連携で、国・地方公共団体・各機関の分散管理する情報の連携で一元化を図る制度。

**問** まだ始まったもないのに改正案が出されている。その内容は。

**総務課長** 2つある。1つはマイナンバー法に



政府広報誌

更に金融機関の預貯金口座、特定健康診査、予防接種の履歴、その他特定優良賃貸住宅の管理や条例による独自利用もできるようになる。もう1つの個人情報保護の改正では、ビッグデータを活用して、新たなビジネスチャンスを生み出すために、個人情報の流通性を高めつつ、情報漏洩に対する罰則の規定を新設する。

### ふるさと納税の返礼品は

**問** ふるさと納税の申し込みが新年度2ヶ月間で8千万円を超えた。返礼品の新規企画商品の開発を、村内の多くの方から提案頂く説明会をもう一度開催できないか。

**村長** 返礼品が一部品切れの状況である。更なる返礼品の開拓、開発を目指し、産業振興や活性化につなげられるよう、NPO法人たかぎ・産業振興課・企画財政課で連携を取りながら、2回目の説明会を開催したい。

### コミュニティ バスの運行は

**問** たかぎコミュニティバスの実証運行1ヶ月での問題点と今後の対応は。

**企画財政課長**

利用時間帯は午前集中している、また、路線別では、小川線・阿島南線の利用が少ない。利用がしやすく効率運行できるように、路線の見直し

### 喬木おもてなし 景観会議は

**問** リニア長野県駅からの喬木村の景観を「喬木おもてなし景観会議」として、村民の自主

的組織を形成し、交流人口の増加や将来の人口増に寄与する事を考え、村にも協力頂きたいが。

**村長** 村内各所に、四季に応じて自然豊かな景観が残されている。こうした景観を立場の違った多くの関係する皆様の意見、提案をいただく事は、喬木村ならではの景観創出や実行的な景観形成の推進に大きな力となる。このような提案に対して、村も一緒に考えていきたい。



コミュニティバス実証運行

後藤 章人 議員

## 男女共同参画計画の成果と今後は

**問** 平成10年以来、村では男女共同参画に関わる活動に積極的に取り組んできたが、その成果は。

**村長** 各委員会や団体における女性の在籍数など、向上しなければならぬ点も多いと思うが、推進計画に基づいた啓発活動、研修会参加、講演会等の開催について、住民の男女共同参画に関する意識は向上してきたと考える。また、女性が活躍できる環境の整備も少しずつ進んできていると実感している。

**問** 意識は向上しているものの、まだ根付いていないと思うが。

**村長** 意識は向上しているが、決して高いとは言えない。村民の間でも、感じ方により温度差があり、根付くというところまでには長い時間がかかると感じている。

**問** 意識は向上しているものの、まだ根付いていないと思うが。

**村長** 特措法の執行において、

これを「喬木子育て憲章」へ組み入れてはどうか。

**村長** 子育ての分野は、男女共同参画の意識が低調とはいえず、進んでいる部分だと考えている。具体的には、男女共同参画という言葉は登場しないが、それを前提として策定されていると理解している。



村の男女共同参画計画

## 空き家対策の特別措置法は

**問** 子どもの頃から男女共同参画の心を養う1つの方法として、

**問** 策の特別措置法が全面施行されたが、この特措法の下、村は空き家対策にどのように取り組んでいくのか。また、小川地区にある建造物については、どのように考えているか。

**村長** 5月26日空き家対策の特別措置法が全面施行されたが、この特措法の下、村は空き家対策にどのように取り組んでいくのか。また、小川地区にある建造物については、住民の皆様にとっては深刻な問題であると思っている。村としても真摯に検討していきたい。

昼神 一二三男 議員

## 正規職員の募集は

**問** 本年度から試験内容の行政専門試験が廃止され、事務能力やケースタディ試験など素養に重きをおいた能力検査へと変更した理由は。

**総務課長** 地方自治体を取り巻く現下の情勢を鑑みると、求められる資質は、知識を生かして知恵に繋げることが出来る人材である。地方分権の進展に伴い、より一層地方自治体の主体的な行政運営が求められる中、職員には喬木村を取り巻く多様な課題を的確に認識しそれに対する解決策を見出せる応用力の高い人材が求められることから、今回の変更となった。

**問** 過去5年間の事務上級試験の受験者数と合格者数は。

**総務課長** そのうち村出身者は、74名の受験者があり、そのうち村出身者等村内の関係者は23名である。

り、10月あるいは1月の募集選考を行う際に、初級試験の実施について検討したい。

**問** 受験資格に、年齢要件の他に住所要件を付ける市町村があるが喬木村の考えは。

**村長** 行政職員として、災害対応などを考えると喬木村出身で喬木村在住者を採用することが望ましいとの思いはある。しかし、喬木村に居住する者のみを応募対象とした場合、人口規模から受験者数の限定が予想される。今、村が求める変革意識と使命感を持つ行動できる人材は、大きな募集団の中から選考の上、優秀な人材を確保したい。応募にあたって村内居住者などの住所要件の設定は考えていない。

**問** 採用は14名、このうち村内に居住している者は5名である。

**問** 今回の採用試験区分は、一般事務上級であるが、今後、中級試験、初級試験の考えは。

**総務課長** 今回実施する試験は、大学卒業程度の者を対象とする一般事務上級試験で、採用人数は若干名を予定している。試験の結果、望ましい人材が確保できなかった場合は、10月あるいは1月にも募集選考を実施したいと考えている。

**問** 中級試験は、本年度も実施の予定はない。

**総務課長** 初級試験にあたる高校新卒者の採用活動は、労働関係と教育関係の関連機関の申し合わせにより採用時期に関する取り決めがある。



28年度職員募集ポスター

# 森谷博之 議員

## 林業の諸施策は

**問** 里山整備事業によつて道路沿いの山林が間伐され、すつきりとした山に変わった。竹林については、3年もすれば除伐前と変わらない状況になると思われる。冬場の道路管理面から継続した除伐が必要だが、村の考えは。

**建設課長** 里山整備事業は県と地主との間で、施工後20年間適正に管理するという協定を結んでいるので地主が行う。また、竹林でも任意団体で整備すれば村でも補助金を出す。

**問** 今年度以降の里山整備事業の進め方は。

**建設課長** 県の森林税を活用した事業であるので、利用できるうちに進めていく。

**問** 松枯れの被害木の処理に多額の予算付けがされているが、その対策にもかかわらず被害木が増加し処理が追いつかないように思うが。

**村長** 被害拡大が早く処理が追いつかない現状である。今後は、国県の補助を最大限活用して対応していく。

**問** 過去にヘリコプターによる薬剤散布が行われたが、散布の有無について検討するか。

**村長** 毎年、伐倒処理をしてきた経過もあり、県の林務課とも検討したが、現行法が喬木村にとつて効率的である。空中防除

の再開は考えていないが、被害の状況や近隣町村の動向を見ながら検討していく。

**問** 村有林の茸山の一般開放を止めて入札によつて税込を上げる取り組みは。

**村長** 入札を行うとすると私有地との境や私有地を通る許可など、費用対効果の面で税込アップとなればいいが、村費持ち出しということになりかねないこともあり、現在は考えていない。



村道脇の里山整備

## 全員協議会報告

6月12日、25日に全員協議会が開催され、村より報告があった。

**◇リニア駅周辺整備基本構想について**

飯田市で、リニアの整備効果を最大限に引き出し、長野県の南の玄関口及び三遠南信地域の北の玄関口にふさわしいリニア駅とするため「リニア駅周辺整備基本構想」が策定された。

**◇旧飯田工業高校後利用について**

旧飯田工業高校を、産業振興と地域振興に寄与する学術研究の「知の拠点」として活用したい旨、飯田市より示された。

**・知の拠点の機能を高める**

世界に通ずるグローバルな高等教育機関の設置（デザイン系大学院大学）等

**・産業振興の知の拠点**

南信州飯田産業センターを機能拡充・移転し、企業研究開発を支援する試験・検査施設の拡充等

**・地域振興の知の拠点**

南信州の価値を探求する学術研究期間の設置

## 議会日誌

4月

8日 総務産業建設常任委員会

8日 議会全体会

20日 議会全員協議会

20日 総務産業建設常任委員会企業訪問

25日 議会モニターとの懇談会

27日 総務産業建設常任委員会企業訪問

5月

8日 緑化祭

11日 北部総合事務組合議会臨時会・全員協議会

11日 議会運営委員会

18日 北部ブロック正副議長・事務局長会議

20日 議会運営委員会・臨時会

22日 県初当選議員研修会

25日 下伊那郡町村議会議長会総会

25日 広域連合議会臨時会、全員協議会

26日 正副議長全国研修会（～27日）

6月

3日 県町村議会議長会臨時総会

5日 戦没者追悼式

5日 議会運営委員会

8日 北部地域活性化講演会

12日 第2回定例会開会・全員協議会・全体会

15日 予算決算常任委員会

16日 社会文教常任委員会

16日 総務産業建設常任委員会

22日 一般質問・予算決算常任委員会・全体会

25日 議会運営委員会

# 「地域の縁側ボランティア健康相談室」を始めました

社協ボランティア 羽生 憲直



上平の出身で、この3月まで飯田市立病院に勤めていました。定年退職を機に、今までお世話になった喬木村の方々に何かお役に立てることはなにか考えました。

病院で働いていますと、ご自分の健康に不安をお持ちの方が多いのに気がかされます。また、あちこちの病院で診てもらっても不満をお持ちの方、一

この村で  
**がんばって  
ます!!**

方で体調不良があつても受診を控えてしまう方も少なくありません。不安があるのに「病院に行つてもしょうがない」...と思つておられる方が多いのではないのでしょうか?そんな方々のお話を直接お聞きして、一緒にこれから考える機会を持ちたいと考えたのがこの取り組みを始めるきっかけです。



相談を受ける羽生先生

私自身も今の医療では垣間見ることができない視点で健康について考えたいと思いました。今の自分の力で出来ることをしながら村の方々と関わりを持ち、そのことで地域づくりに貢献できればとも考えました。

そんな漠然とした話を同級生に持ちかけましたところ、社会福祉協議会の桐生事務局長さんはじめスタッフの方々が受け止めて下さり、「縁側の会」の方々の協力も頂けることになって、健康相談室が始まりました。

4月から、毎週水曜日の午後4時すぎに社協の1室をお借りして、来ていただける方々のお話を聴いております。お一人30分くらい時間を取るようにしています。この3ヶ月で20名ほどの方とお会いしています。お役に立てたかどうかわかりませんが、だんだんに私も進歩・上達してゆきたいと思つています。

どうぞ気楽に、縁側のようにお立ち寄りいただければと思います。

## シリーズ 一般質問 その後どうなったか

Q・ふるさと納税の取り組みは

平成20年度のふるさと納税制度の導入当初は、納税金額も少なく、いちご・りんご・ブルーベリー狩り無料招待券の配布をしてきた。昨年度は、カタログギフトを作成した。本年度より、「ふるさとチョイス」にカタログギフトを掲載し、インターネットからの申し込みができるようになった。さらに、クレジット決済の導入により、寄付金額・件数ともに大幅増となった。その結果、返礼品も一部品切れの状況であり、村内の産業振興や活性化につながるよう、NPO法人たかぎ・産業振興課・企画財政課で連携を図りながら返礼品の開拓・開発を進め、寄付額の増加に取り組む。



27年度版「たかぎふと」表紙

## あとがき

平成27年第2回定例会も終了し、委員会構成も新しく残り任期2年がスタートした。

この2年は、リニア着工・三遠南信自動車道が目に見えて進捗すると思われる。その中で村民の不安を払拭できるように村議会も住民目線で対応していかなければならない。

議会だよりが届く頃には、梅雨明けとなるだろう。大きな災害もなく経過し、桃やスイカに夏を感じる季節となる。

庁舎改築も完了し議場も新しくなった。議会がどのように進捗して議論しているか、多くの村民の方々の傍聴をお願いいたします。(森谷)

### 編集委員会

- 委員長 森谷博之
- 副委員長 下岡幸文
- 委員 中森高茂
- 委員 後藤章人
- 委員 小池豊